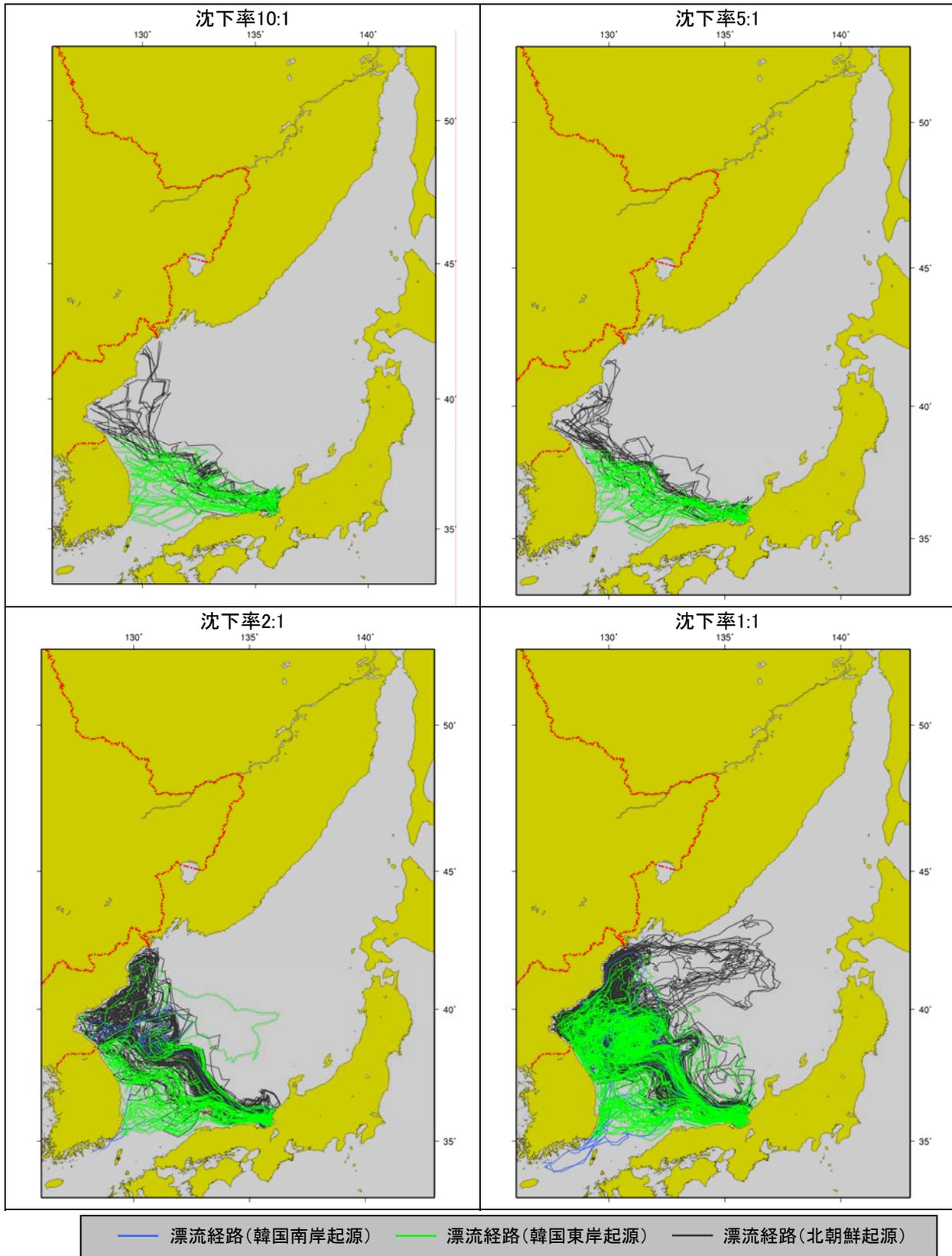


< 出典：国際的削減方策調査 >

図 3.5-2 ポリ容器投入位置



< 出典：国際的削減方策調査 >

図 3.5-3 福井県に漂着したポリ容器の漂流予測経路 (2006年1月~3月)

表 3.5-1 ポリ容器の漂流時間と最大発生月

空中:水中=10:1

	漂着 個数	漂流時間(日)			最大 発生月
		平均	最大	最小	
北海道	0	0	0	0	—
青森	0	0	0	0	—
秋田	0	0	0	0	—
山形	0	0	0	0	—
新潟	0	0	0	0	—
富山	0	0	0	0	—
石川	33	40	54	25	2月
福井	34	31	51	19	2月
京都	25	29	42	19	1月
兵庫	26	28	38	15	2月
鳥取	45	22	38	14	2月
島根	193	16	36	7	3月
山口	139	14	31	6	1月
福岡	46	13	24	6	2月
佐賀	3	11	17	7	2月
長崎	51	9	14	6	1月

空中:水中=5:1

	漂着 個数	漂流時間(日)			最大 発生月
		平均	最大	最小	
北海道	0	0	0	0	—
青森	0	0	0	0	—
秋田	0	0	0	0	—
山形	0	0	0	0	—
新潟	1	55	55	55	1月
富山	0	0	0	0	—
石川	42	47	66	36	2月
福井	31	40	55	29	2月
京都	8	33	41	20	1月
兵庫	25	30	47	19	1月
鳥取	54	29	46	15	2月
島根	233	21	52	9	12月
山口	175	17	35	8	1月
福岡	30	17	24	10	2月
佐賀	5	11	16	9	1月
長崎	45	12	23	8	1月

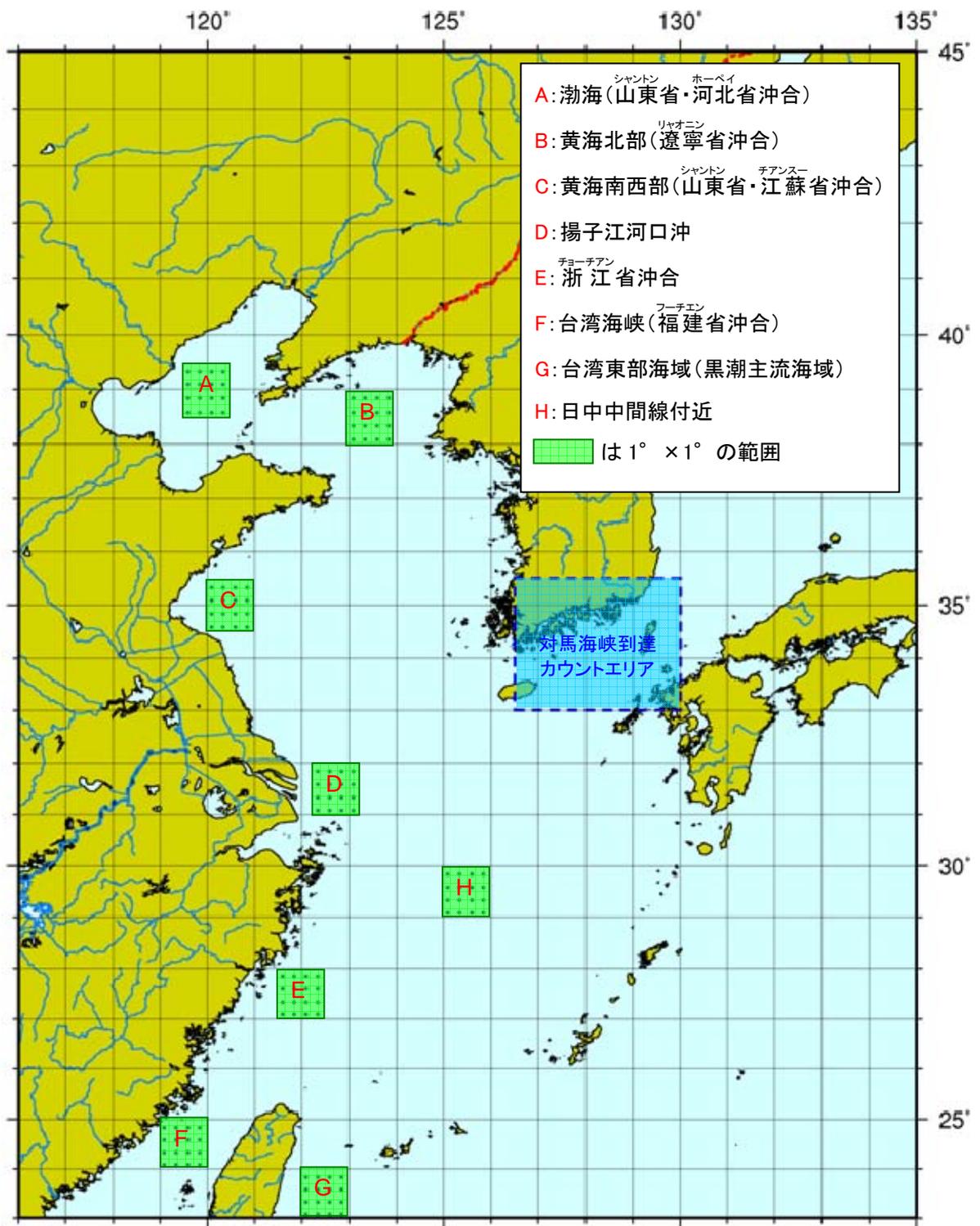
空中:水中=2:1

	漂着 個数	漂流時間(日)			最大 発生月
		平均	最大	最小	
北海道	0	0	0	0	—
青森	0	0	0	0	—
秋田	0	0	0	0	—
山形	0	0	0	0	—
新潟	6	76	86	65	1月
富山	0	0	0	0	—
石川	33	60	86	39	1月
福井	48	60	229	37	2月
京都	7	48	81	31	2月
兵庫	29	39	67	23	1,2月
鳥取	57	34	61	20	12月
島根	239	26	55	12	2月
山口	175	21	46	12	1月
福岡	26	20	31	14	1月
佐賀	5	16	19	14	1月
長崎	30	18	26	11	1月

空中:水中=1:1

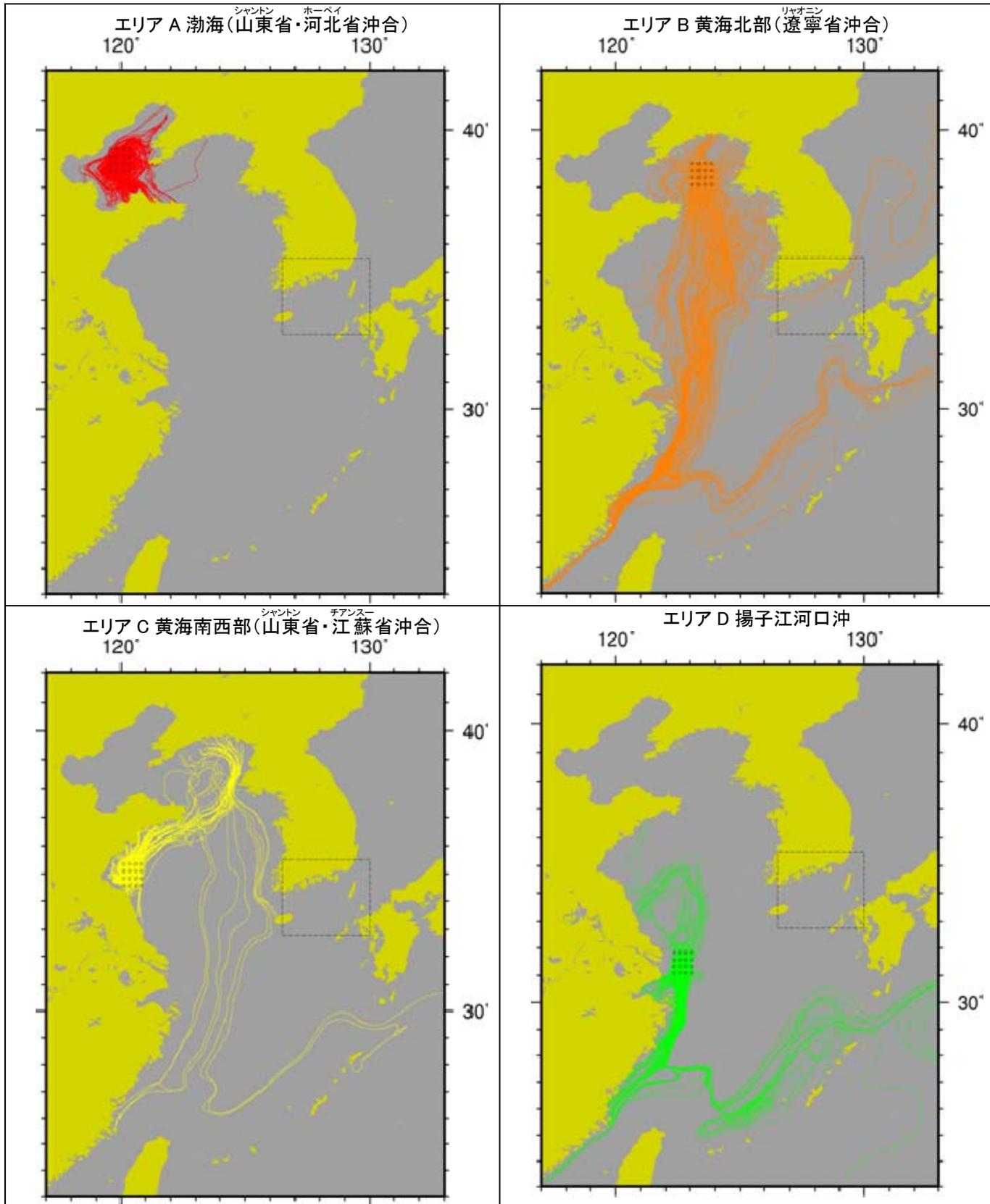
	漂着 個数	漂流時間(日)			最大 発生月
		平均	最大	最小	
北海道	7	252	280	219	4月
青森	0	0	0	0	—
秋田	1	49	49	49	2月
山形	0	0	0	0	—
新潟	5	145	268	88	12月
富山	0	0	0	0	—
石川	53	105	348	40	1月
福井	102	93	283	29	1月
京都	19	63	273	28	2月
兵庫	39	60	284	29	12月
鳥取	52	45	302	15	12月
島根	240	34	305	14	2月
山口	148	27	46	15	1月
福岡	31	25	33	18	12月
佐賀	4	25	35	18	1月
長崎	33	21	35	13	1月

< 出典：国際的削減方策調査 >



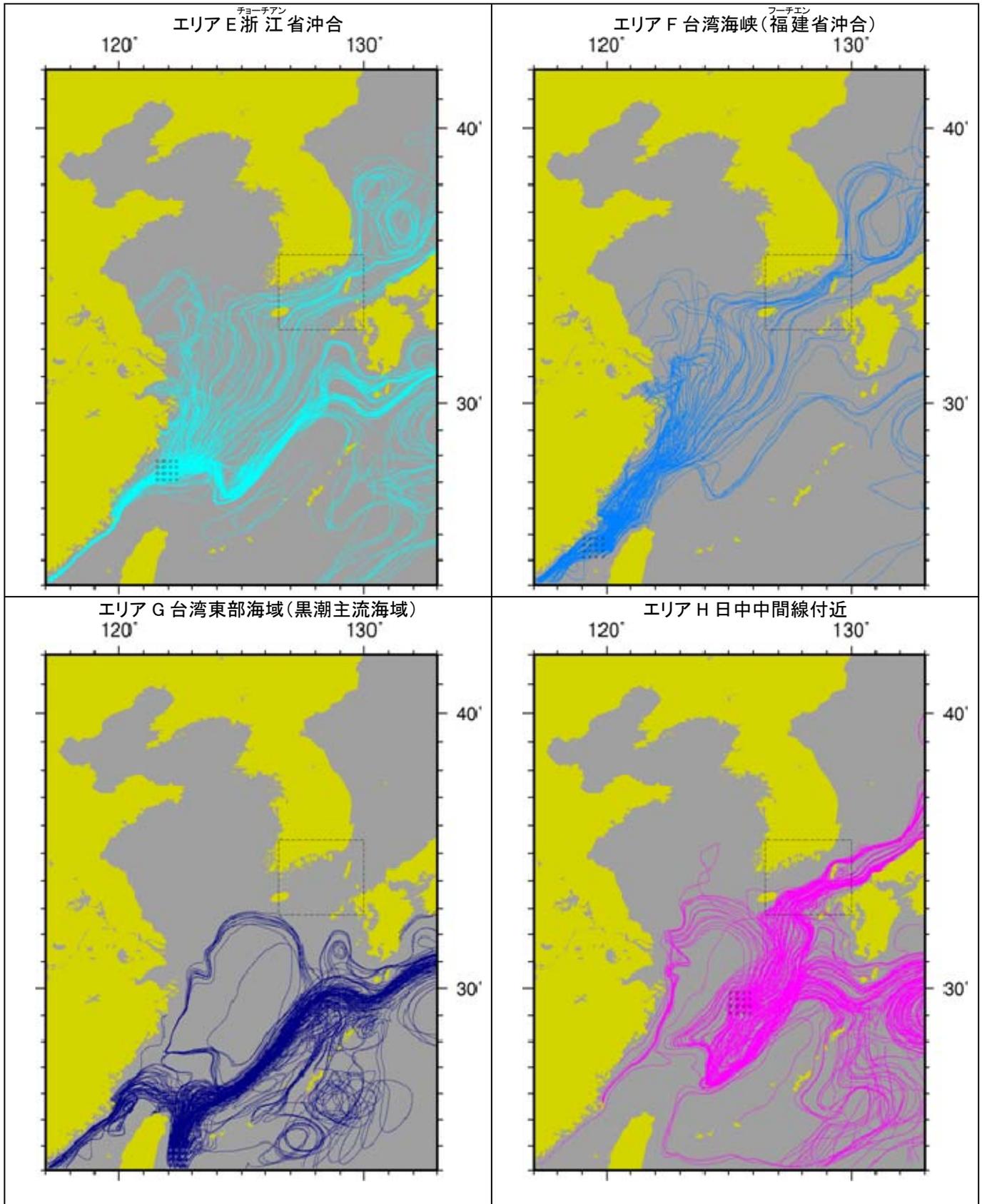
< 出典：国際的削減方策調査 >

図 3.5-4 漁業用フロートの投入位置



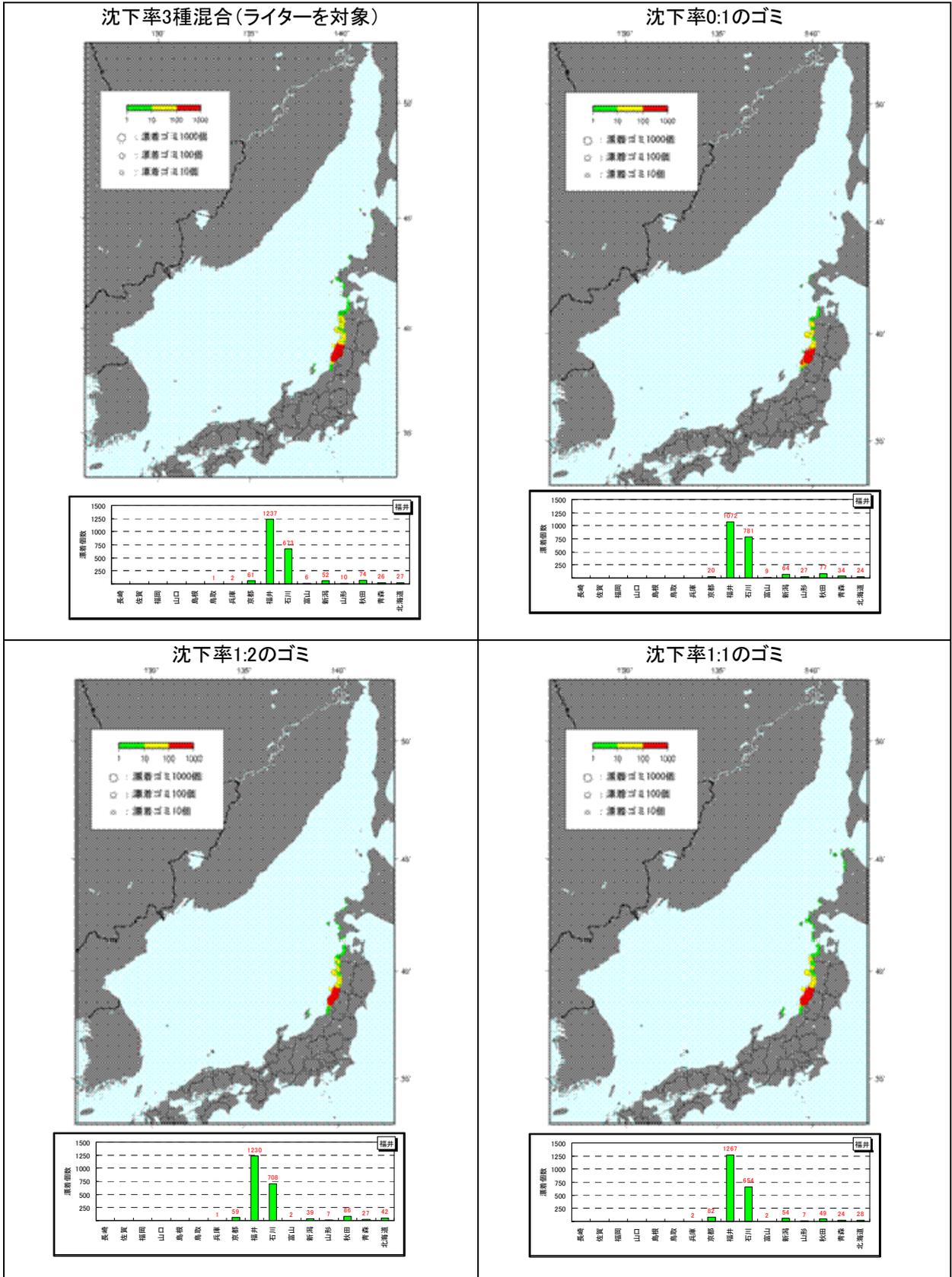
< 出典：国際的削減方策調査 >

図 3.5-5(1) 漁業用フロートの投入エリア別漂流経路



< 出典 : 国際的削減方策調査 >

図 3.5-5(2) 漁業用フロートの投入エリア別漂流経路



< 出典：国際的削減方策調査 >

図 3.5-6 福井県沿岸からの発生を想定したゴミの漂着密度分布

3.6 国内におけるライターの発生場所の推定

調査範囲においてクリーンアップ調査(共通調査及び独自調査)で回収されたライターを用いて、住所や電話番号などの記載されている情報から発生場所の推定を試みた。あくまで表記されていた情報によるため、実際の発生場所とは必ずしも一致しない。回収個数は604個で、そのうち情報が得られたライターは16個であった。

発生場所の推定結果を、図 3.6-1 に示す。赤色の点は、ライターに表記されていた住所の地点を示す。ピンク色の点は特定できた市町村を示す。赤の円は、ライターからの情報が市町村名までや電話番号のみであるため、範囲を持たせて示してある。

推定される発生場所は、九頭竜川の流域を中心に分布していることがわかる。図中には示されていないが千葉県や熊本県の位置が記載されたライターもあったが、これらは発生場所から調査範囲へ直接流れ着いたとは考えにくい。調査範囲に漂着するライターの発生源を考察するためにはサンプル数が十分ではないが、これらの結果はライターの発生場所の傾向を示すとともに、発生源推定の手法の有効性を示すものと考えられる。

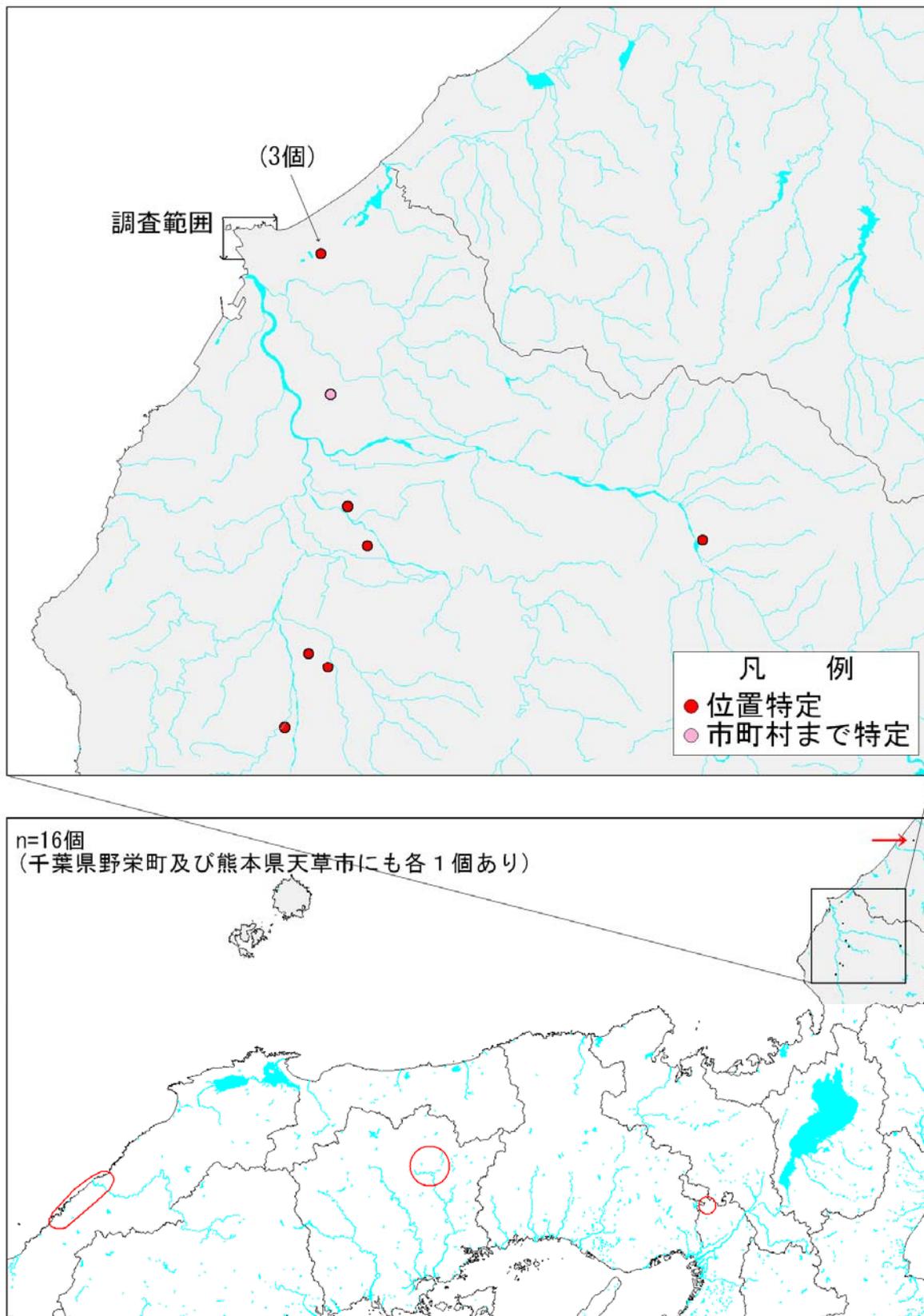


図 3.6-1 ライターの発生場所の推定結果